



自習 & ハンズオントレーニング資料
Backup Exec 20
BE20-05
ディスクストレージの作成

ベリタステクノロジーズ合同会社

テクノロジーセールス & サービス統括本部
セールスエンジニアリング本部

免責事項

- ベリタステクノロジーズ合同会社は、この文書の著作権を留保します。また、記載された内容の無謬性を保証しません。
- VERITAS の製品は将来に渡って仕様を変更する可能性を常に含み、これらは予告なく行われることもあります。
- なお、当ドキュメントの内容は参考資料として、読者の責任において管理/配布されるようお願いいたします。二次利用される場合、弊社はその成果物に対して責任を負いません。

目的

本資料で自習もしくはハンズオントレーニングを受講すると、以下が可能となります。

- Backup Exec のバックアップデータの保存先として、ディスクストレージを作成できるようになります。
- 作成時に必要な各種設定項目がわかります。
- 上記により、お客様への製品販売時の作業が実施可能となります。

■ハンズオン環境の場合

以降は、事前に講師から指示された仮想マシン上で作業を実施します。

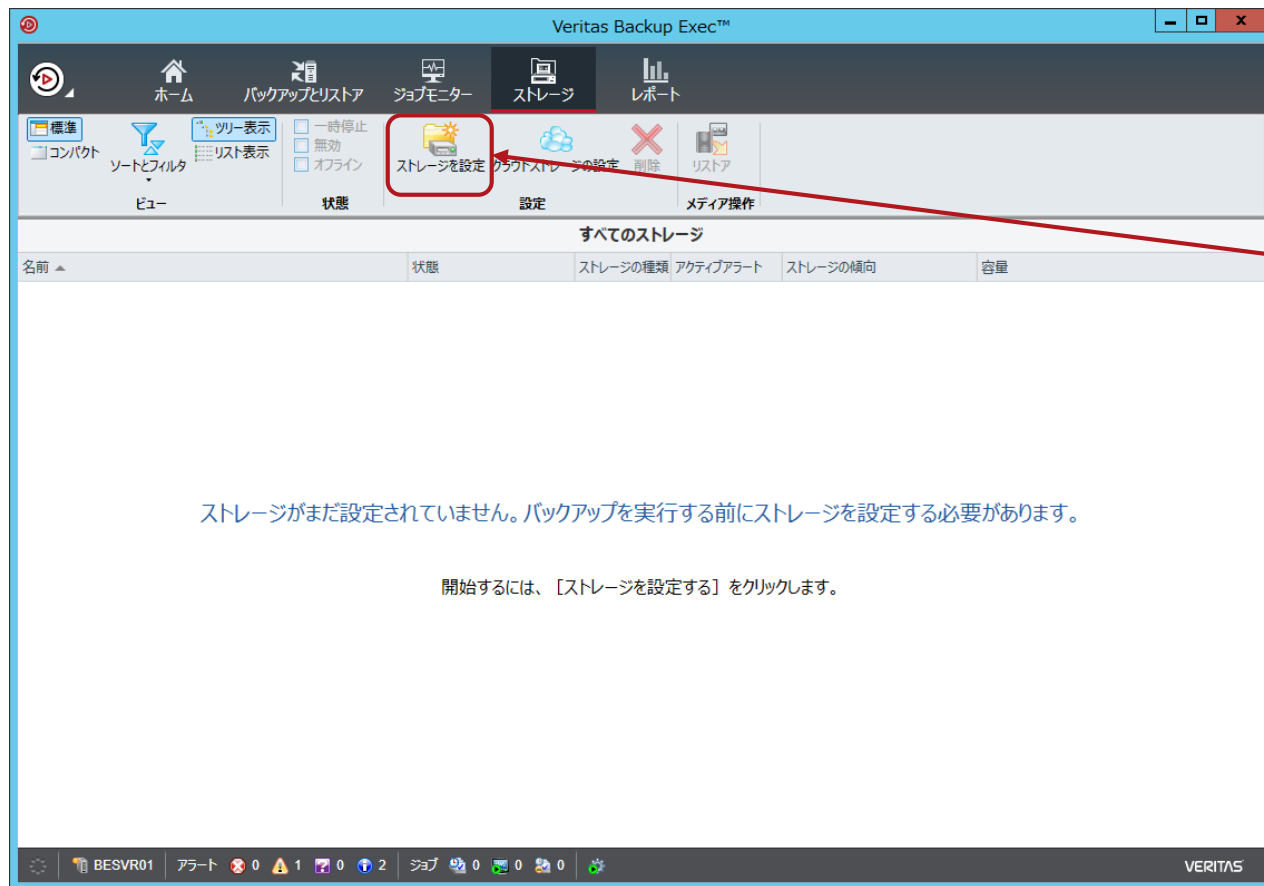
以下を確認して作業を進めてください。

- ・仮想マシン名
- ・アカウント
- ・パスワード

■自習の場合

以降は、記述内容を適宜自習環境の情報と読み替えて作業を実施してください。

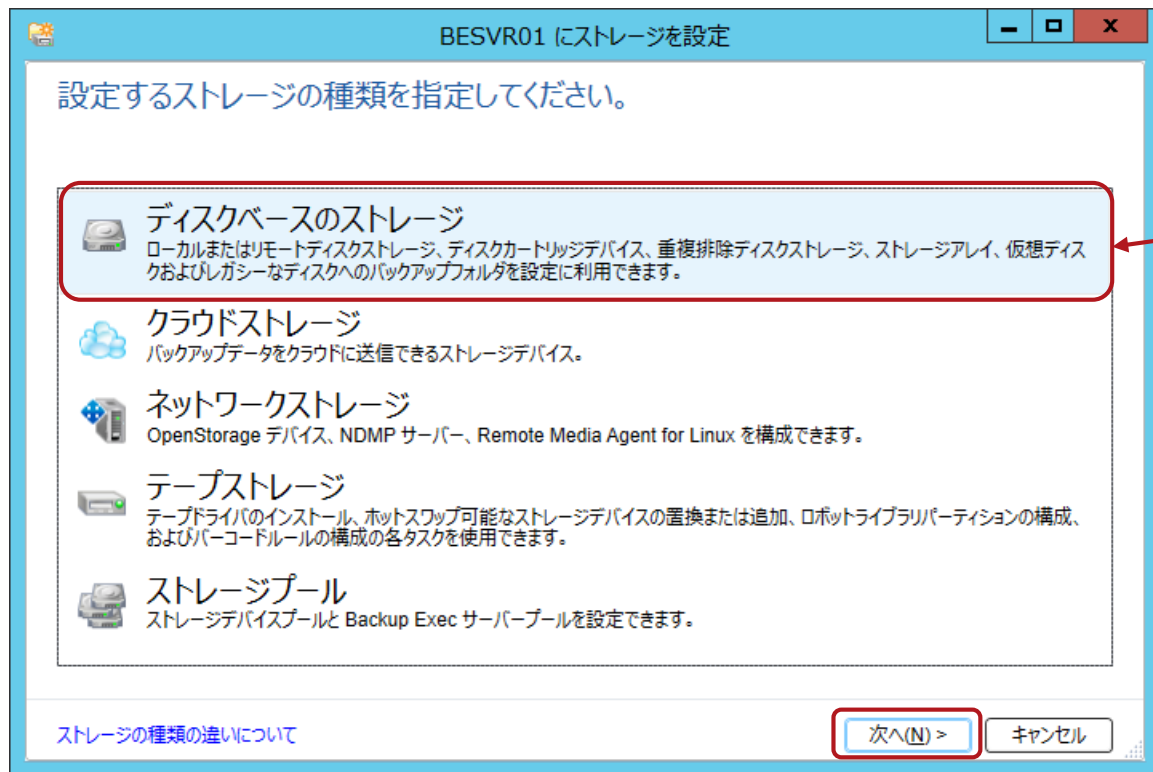
1/12 設定ウィザードの起動



Backup Exec の GUI を起動し「ストレージ」のタブに移動します。

「ストレージを設定」をクリックします。

2/12 ストレージの種類を選択

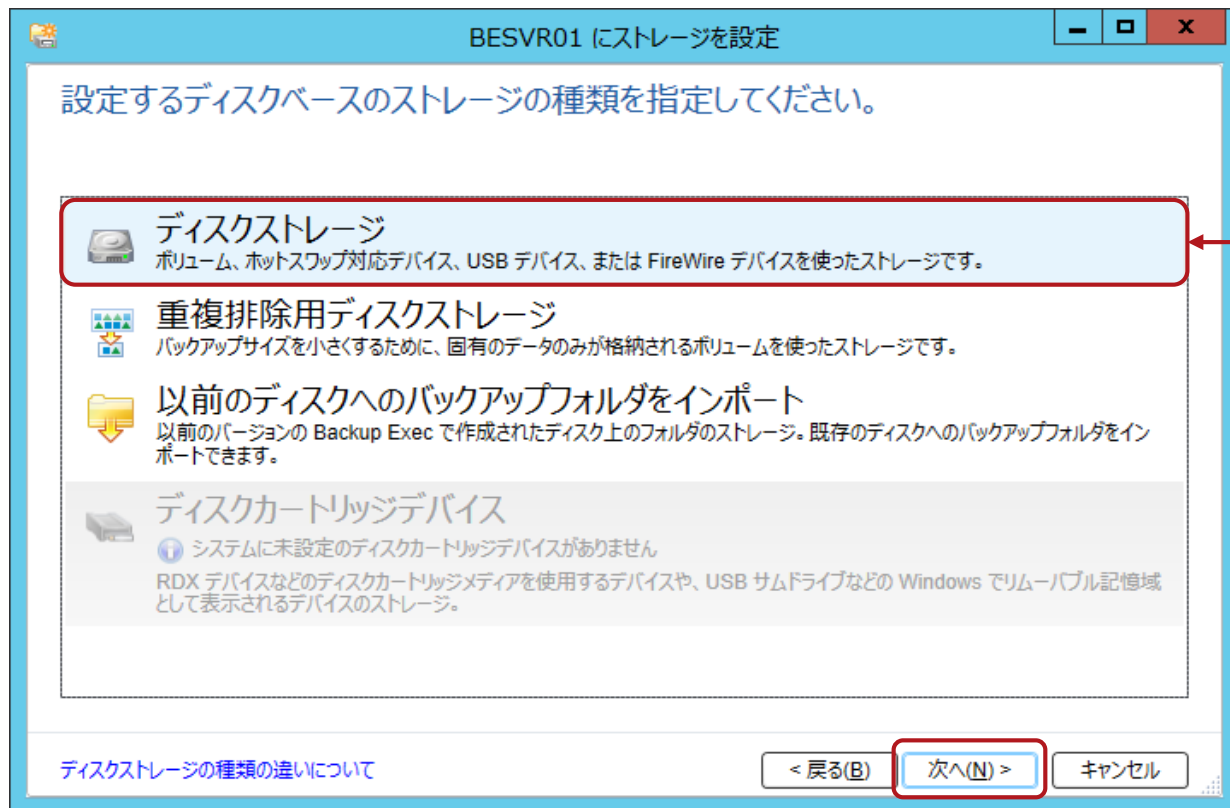


「ストレージを設定」ウィザードが表示されます。

「ディスクベースのストレージ」を選択します。

「次へ」をクリックします。

3/12 ディスクベースのストレージの種類を選択



設定するディスクベースのストレージの種類を指定する画面が表示されます。

「ディスクストレージ」を選択します。

「次へ」をクリックします。

4/12 ディスクストレージの名称設定

BESVR01 にストレージを設定

ディスクストレージデバイスに使用する名前と説明を指定してください。

名前(M): ディスクストレージ 0001

説明(D):

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

ディスクストレージデバイスに使用する名前と説明を指定する画面が表示されます。

ハンズオンではデフォルト値のまま「次へ」をクリックします。

実際の導入時は、利用目的がわかる名称にする、などの工夫をすると、運用上管理しやすくなります。

ストレージを複数作成する際は、先頭に英数字を設定し、ASCII順に意図した順番に表示できるようにするとわかりやすいです。

ストレージ名の参考例)

STG01-fileserver ファイルサーバ用ストレージ 1番目に表示

STG02-SQLServer SQLServer用ストレージ 2番目に表示

5/12 作成場所の設定

BESVR01 にストレージを設定

ディスクストレージデバイスを作成する場所を指定してください。

☒ ローカルディスク(L): E: (950 MB 空き)
1つのボリューム上に作成できるディスクストレージデバイスは1つだけです。

☐ ネットワーク共有(W):
ネットワーク共有の UNC パスを入力します。例: \\server\share

Backup Exec は、ローカルディスクがまだフォーマットされていない場合にのみ、これをフォーマットします。上書きされているデータはありません。

Windows データの重複排除がディスクストレージを作成するドライブで有効になっている場合、Backup Exec は重複排除から \BEData フォルダのバックアップデータを除外します (\BEData フォルダがすでに存在している場合を除く)。Backup Exec は重複排除からバックアップデータを除外し、Simplified Disaster Recovery が Backup Exec サーバーのローカルリカバリを実行できるようにする必要があります。

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

ディスクストレージデバイスの作成場所を指定する画面が表示されます。

バックアップ先のボリュームを選択します。

「次へ」をクリックします。

今回のハンズオンでは、「E: ドライブ」を選択します。

System (C:)	ローカル ディスク
DVD ドライブ (D:) Veritas	CD ドライブ
B2D-vol (E:)	ローカル ディスク
Dedup-vol (F:)	ローカル ディスク

- ・ローカルディスクをバックアップ先に設定する場合
ドライブ単位での指定(1ドライブ上に、1つのディスクストレージを作成可能)
- ・バックアップ先にNASを設定する場合
共有フォルダをUNCパスで指定(1つの共有上に複数のディスクストレージを作成する場合は、サブフォルダを作成し、そこを指定して作成する)

※)「ネットワーク共有」で設定する場合、インストール時に設定した Backup Exec のサービスアカウントが、その共有に対してアクセス権を持っている必要があります。

6/12 同時並行処理数の設定

BESVR01 ストレージを設定

このディスクストレージデバイス上での同時実行を許可する、書き込み操作数を指定してください。

書き込みの同時並行処理(C): 2

この設定は、このデバイスで同時にデータを書き込みできるジョブ数を決定めます。このデバイスが処理できるジョブの数は、ハードウェアと環境に応じて異なるため、この設定を後で調整することが必要になる場合があります。システムの過負荷を避けるためにできるだけ低く設定することをお勧めしますが、ジョブを適時に処理できる値にする必要があります。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

ディスクストレージデバイスに対する同時並行処理数を指定する画面が表示されます。

同時に実行可能なジョブ数を設定します。

「次へ」をクリックして進めます。

今回のハンズオンでは、デフォルト値のままで、進めます。

同時並行処理数は、以下の点に注意して決定します。
大きすぎる値の設定は、パフォーマンスの低下につながります。

- ・ストレージデバイス側のディスクI/O能力
- ・バックアップ対象サーバ側のデータ送信能力
(ディスクI/O、CPU負荷、ネットワーク)

7/12 設定概要の確認

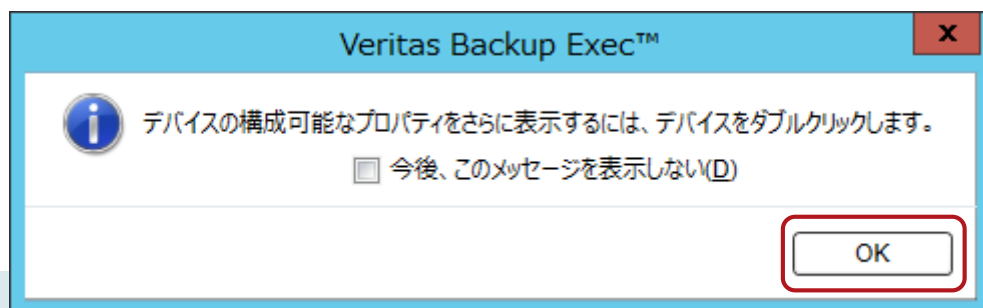


ストレージ設定の概略が表示されます。

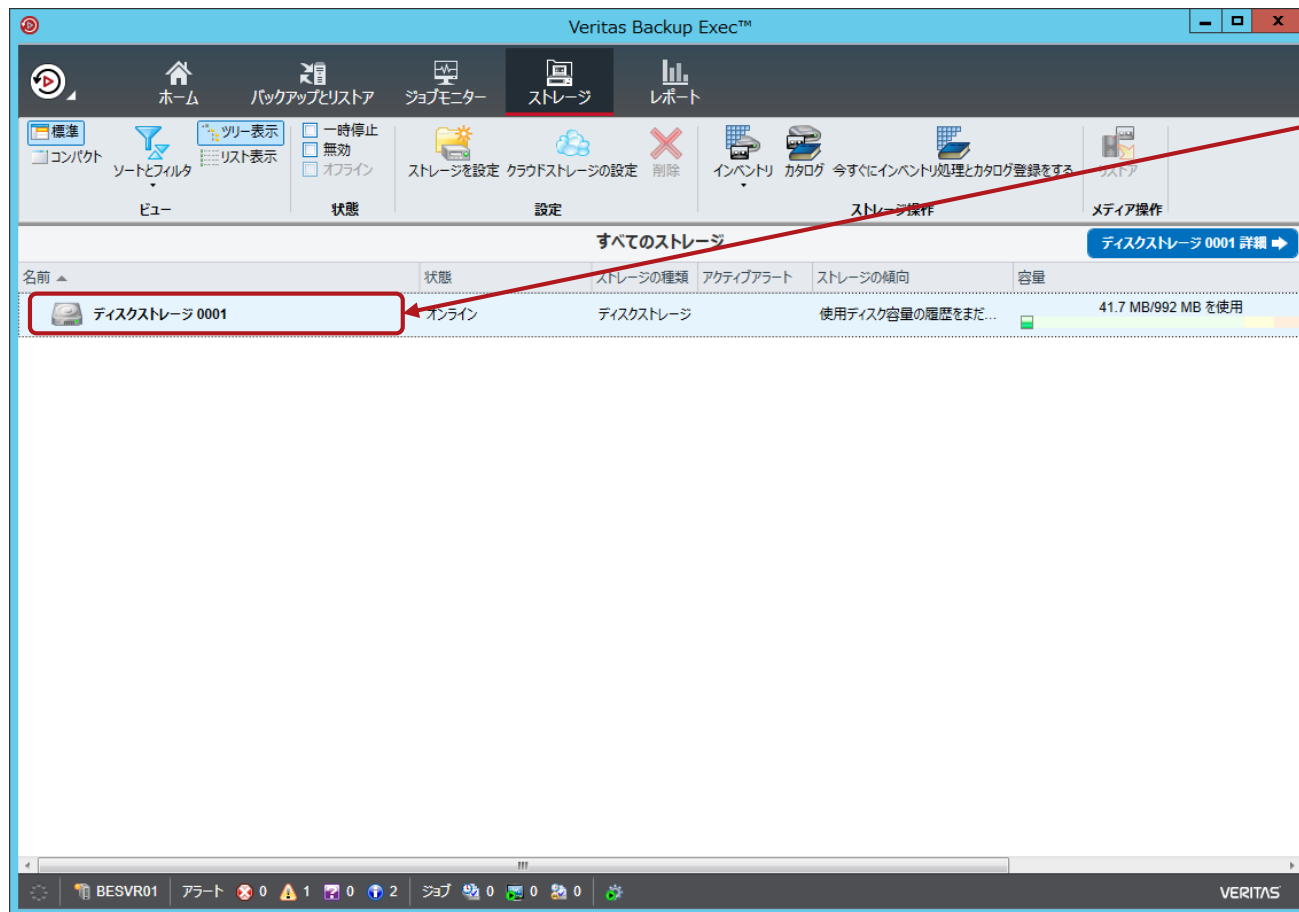
内容を確認の上、「完了」をクリックします。

次にインフォメーションのメッセージが表示されます。

これも「OK」をクリックして閉じます。



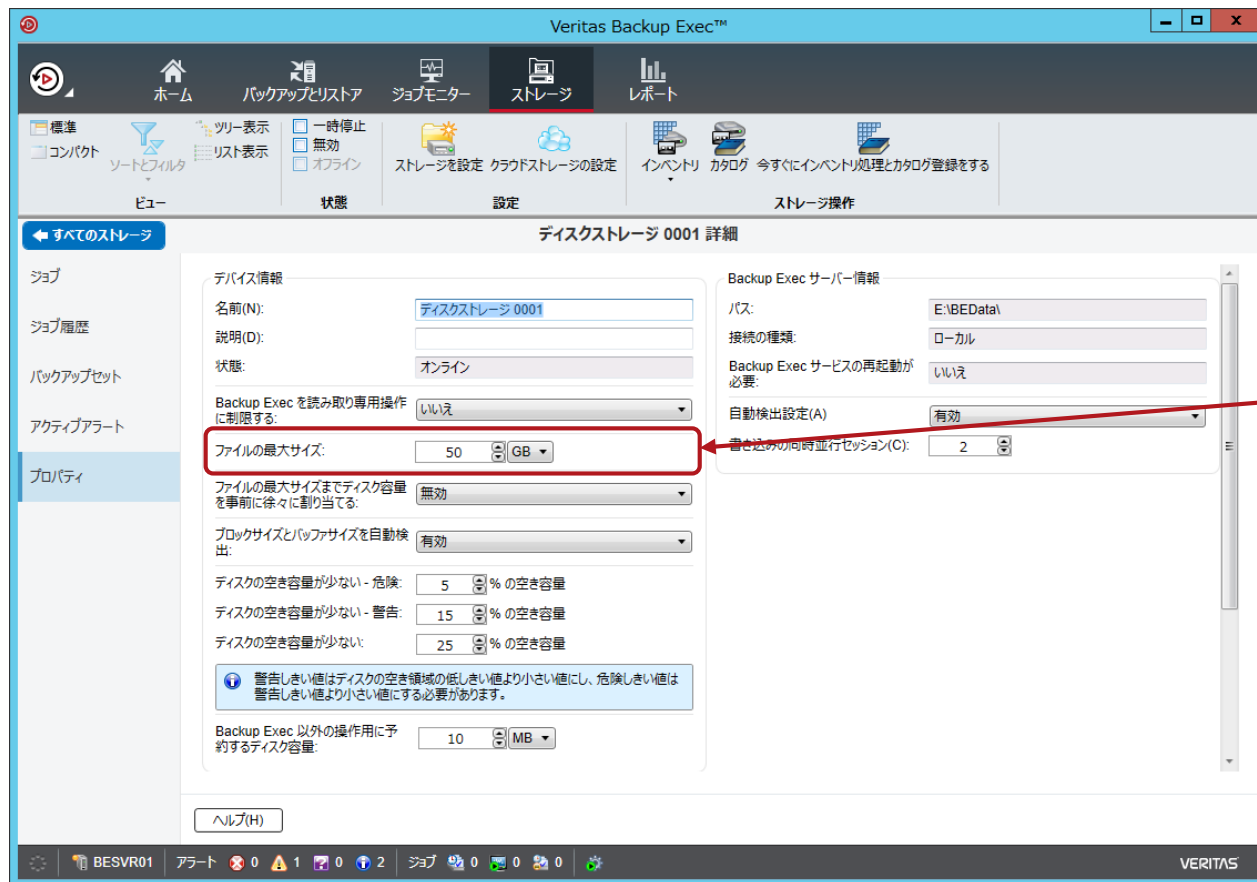
8/12 作成されたデバイスの確認



ストレージタブに「ディスクストレージ0001」が作成されていることを確認します。

表示されているストレージの名前をダブルクリックします。

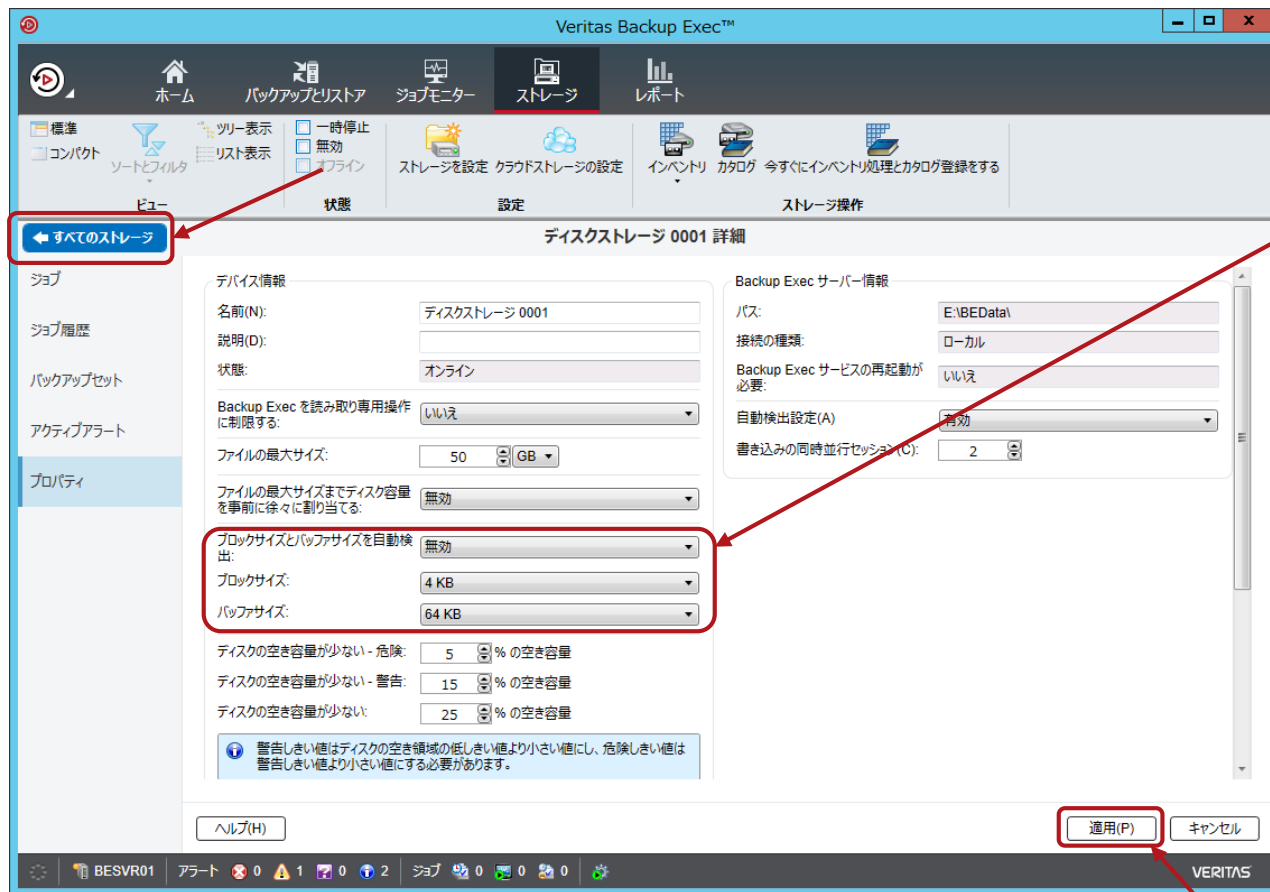
9/12 ストレージのプロパティ その1



作成されたディスクストレージの詳細情報は、詳細画面内の「プロパティ」で確認できます。

※)ディスクストレージ上に作成される、バックアップデータを格納するファイル(拡張子BKF)の最大サイズのデフォルト値は、50GBになっています。バックアップ対象データ量が多い場合は、この際サイズを超えたときに自動的に複数のBKFファイルが作成されます。

10/12 ストレージのプロパティ その2



引き続きプロパティ情報です。

「ブロックサイズとバッファサイズを自動検出」は、パフォーマンスに大きな影響を与える個所です。設定変更時にはご注意ください。

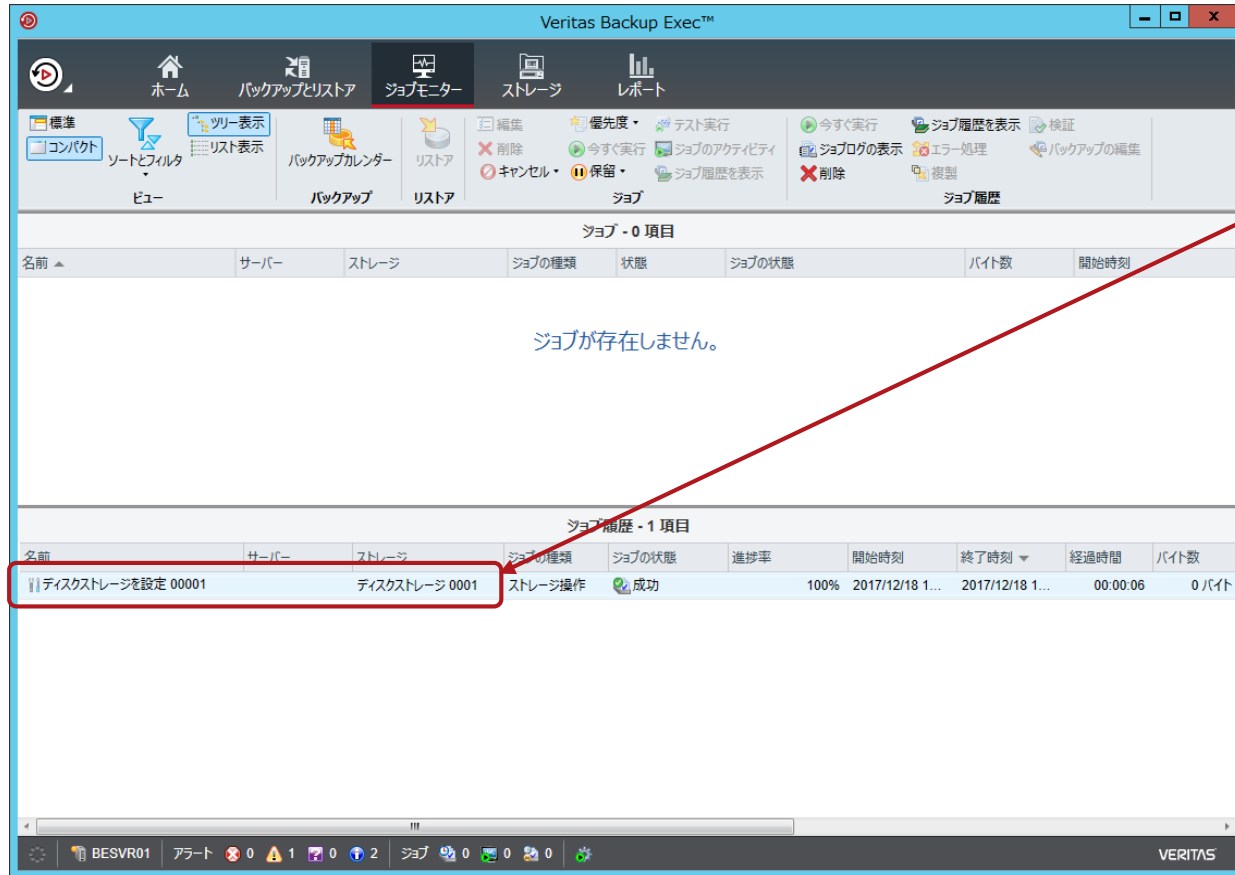
自動検出が「無効」の場合、各サイズの値を調整できます。

注) 昨今のHW性能だと、小さすぎる値はパフォーマンスの低下につながります。

確認後、「すべてのストレージ」をクリックし、元のタブに戻ります。

設定内容を変更した場合は、「適用」をクリックします。

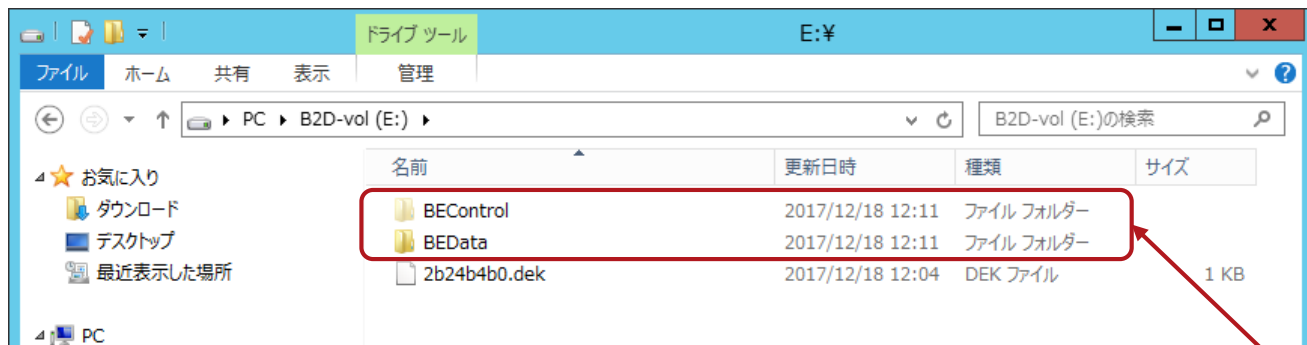
11/12 デバイス作成ジョブの確認



ジョブモニターで、デバイスの作成ジョブが成功していることを確認します。

ジョブ履歴に表示されている行をダブルクリックすると、ジョブログを確認できます。

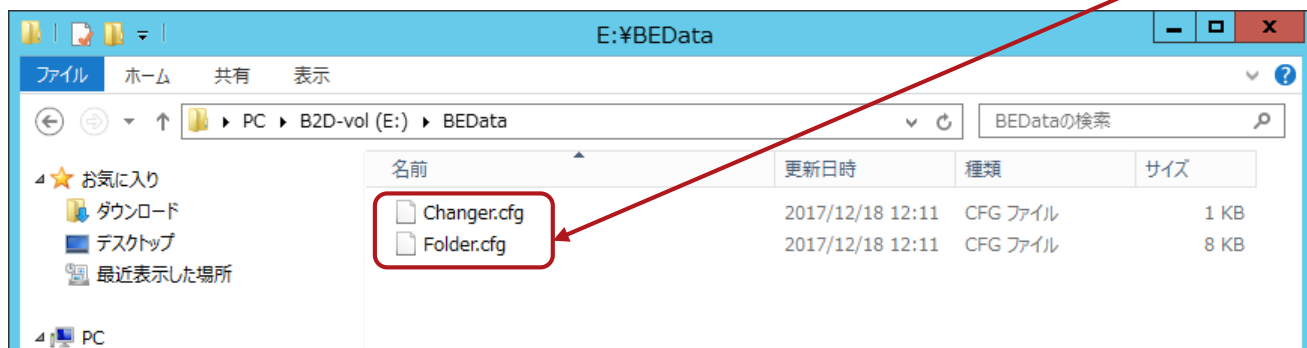
12/12 ディスクストレージの実体 その1



ディスクストレージを作成したディスクを、エクスプローラーで表示します。

ハンズオンでは、E:ドライブを確認します。

バックアップデータの実体を格納するフォルダ「BEData」が見えます。BKFファイルは这其中に作成されます。「BEControl」フォルダは隠しフォルダです。この2つのフォルダが、ディスクストレージの実体です。



※)弊社サポートからの指示が無い限り、これらのフォルダ内のファイルは直接操作不可。公開されている技術情報(Technoteなど)による操作は除く



Thank you!

ベリタステクノロジーズ合同会社
テクノロジーセールス&サービス統括本部
セールスエンジニアリング本部

Copyright © 2015 Veritas Technologies LLC. All rights reserved. Veritas and the Veritas Logo are trademarks or registered trademarks of Veritas Technologies LLC or its affiliates in the U.S. and other countries. Other names may be trademarks of their respective owners.

This document is provided for informational purposes only and is not intended as advertising. All warranties relating to the information in this document, either express or implied, are disclaimed to the maximum extent allowed by law. The information in this document is subject to change without notice.

2018年1月版 V1.0

掲載されている各種情報は2018年1月現在のものです。これらは予告なく変更される場合があります。
最新情報はWEB,各種お問い合わせ窓口、販売店様での確認をお願いします。